

石垣島・与那国島・宮古島の現状

石垣島

「石垣島の平和と自然を守る市民連絡会」の藤井幸子さんは石垣島の出身者ではない。ダイビングがたくて大阪から石垣島に移り住んだ。自然豊かなこの島に惚れ込んで人生を楽しもうと思っていた彼女の目論見は、南西諸島への新基地建設と自衛隊配備で大きく変えられてしまった。

南西諸島とは、九州の南端から台湾北東端の間に弧状に続く島々の総称である。

石垣島・与那国島・宮古島が、新基地建設に伴って変わっていく現状を、昨年未現地の人たちから直接お聞きした。

防衛省は2015年11月に石垣島に基地配備を打診し、2019年3月1日（環境アセス逃れのための着工日）予定地周辺の4地区（嵩田、開南、於茂登、川原）の反対決議と住民行動を無視した工事強行から4年、戦後78年間基地のなかった島に2023年3月16日、陸上自衛隊石垣駐屯地が開設された。



面積は47ha。隊庁舎3棟（うち1棟は地下施設あり）、弾薬庫3棟、車両整備場、福利厚生施設等。これ以外にも弾薬庫1棟、車両整備場が建設中で、今後はさらに訓練場、グラウンドも建設予定、すでに総額936億円が使われている。

（2023/5/23付 防衛省回答）

建設地は於茂登岳ふもとに広がる自然豊かな場所であり、水道水の20%を賄う地下水源地や農業用水の水源域、涵養地である。地下水への影響を調べて欲しいという市民の声、専門家の提言も無視されている。

排水計画については開設時に至るも明らかにされず、2023年3月市議会で突如、調整池から大里農道にある暗渠へ排水することが明らかになり、3月22日の住民説明会資料にも示された。しかし、これがまた問題で、放流先を沖縄防衛局は「沢」として県に届け出ていたが、その放流先は地図上も登記簿上も「田、畑、原野」であり、湿地であることが4月9日の参議院外交防衛委員会の伊波洋一議員の質問で明らかにされた。未だにその解明はなされていない。

弾薬庫から一番近い住宅は約250m、事故や攻撃を受けた場合どうなるのか。安全確保の保障はされず不安な生活を強いられている。

また、周辺は国指定天然記念物で絶滅危惧種カンムリワシの優良な生息域であり、防衛省の調査でも貴重な動植物113種が生息する地域でもある。

基地周辺4地区の歴史

於茂登地区は、沖縄島で米軍基地を造るために追い出された住民の行き先として始まった琉球政府最後の計画移民として、1957年に北谷町と玉城村（現南城市）から入植し、ジャングルを切り開き、石を出し、農地を広げて皆で協力し築いてきた地域である。全会一致で反対決議をした。

嵩田地区は、戦前は台湾からの移民により開拓がはじまり、水牛やパイナップルやマンゴー生産の礎を築き、第二次世界大戦後、新天地を求めた与那国や宮古島などから自由移民という開拓の歴史

がある。大規模な土地改良事業を受けず、農村の原風景を守りながら営農を続けているのも特徴である。

開南地区は、国の開拓事業により、1934年から入植が始まった地域で自衛隊基地施設に一番近い集落となり非常に不安が大きい。

川原地区も苦労を重ねて来た開拓集落で、沖縄戦で海軍ヘギナー飛行場、ヘギナー壕があるため爆撃を受けた地域で戦争につながる基地はいらぬとの思いを持つ人たちが多く暮らしている。

急速に進む日米一体の軍事要塞化

- ① 開設後の4/26：朝鮮民主主義人民共和国の軍事偵察衛星打ち上げを口実に PAC3（地对空誘導弾）が配備。
- ② 9/7：米掃海艦が民間港である石垣港に通常入港。
- ③ 9/14：海兵隊オスプレイが2020年、21年に次いで3回目の緊急着陸。
- ④ 10/14～31：レゾリュートドラゴン23（日米競合訓練）で米軍80名、陸上自衛隊40名が参加。駐屯地内での米軍レーダーによる訓練や初めて陸自オスプレイによる負傷兵の護送訓練が新石垣空港を使用して行われた。

台湾有事を煽る動き

安保3文書が明らかにした敵基地攻撃能力保有、長射程ミサイル配備は、住民避難と結びつき市民の不安を駆り立てている。防衛省は、これまで石垣島への自衛隊配備は島を守る抑止力になると説明してきた。ところが、開設間近になって、抑止できずに「台湾有事」で島が攻撃されるので、住民避難計画だ、シェルター設置だと言い始めた。2月には地元八重山日報社主催で八重山3市町長が参加するシンポジウムまで開かれ、「台湾有事」が既定のこのように語られ、八重山の住民は九州に避難だ、という。しかし現実に避難ができるのか？できたとして避難先での生活はどうなるのか？生活の基盤を捨てて「避難などできない」というのが多くの市民の思いである。

その後も6月11日には、日本青年会議所沖縄地区協議会の2023年度沖縄地区八重山大会の国防セミナーや、同月17日には八重山日報社主催でジャーナリストの櫻井よしこ氏が「島を守る力をみんなで育てよう」をテーマに講演、「石垣の自衛隊を強く」と語っている。11月11日には「国防勉強会 in 石垣」（主催政治団体はるか）が開催、中山市長が基調講演、「国防最前線のまち石垣」を行っている。

「石垣島の平和と自然を守る市民連絡会」の運動

- ① 市民の生活を基地被害から守る。市民の生活権、人権、環境権を守る。
- ② 戦争準備の動きをやめさせ、島を戦場にさせない。長射程のミサイルの配備はさせない。基地を拡大させない、撤去をめざす。日米共同訓練、米軍の常駐はさせない。同じ志の全国、全県の運動と連携しよう。
- ③ 軍事力でなく外交で台湾有事を起こさせない。市民レベルで近隣諸国との市民交流をしよう。
- ④ 監視活動に取り組む。

島の未来は市民が決める

自衛隊配備の賛否を問う住民投票の請求は否決され実施されず、「市長に実施を義務付ける」行政訴訟を提起しても裁判所は判断せず、行政訴訟法の対象にならないと不当な却下判決をした。市民の意思を示す機会を奪い、基地建設は強行され続けている。

「憲法を活かし、島を戦場にさせない！ミサイルより外交を」
これからも諦めずに声を上げ続ける、と締めくくった。



「八重山平和祈念館」で

「戦争マラリア」の実態を学ぶ

「八重山戦争マラリア」とは、アジア・太平洋戦争末期の1945年、沖縄八重山郡の住民が、日本軍の命令によりマラリア有病地帯へ強制移動させられ、全人口31,701人のうち、16,884人が罹患し、3,825人が亡くなったことをいう。

なぜ、日本軍は住民を有病地帯に送る必要があったのか？

それは、住民の食料を奪うためだ。



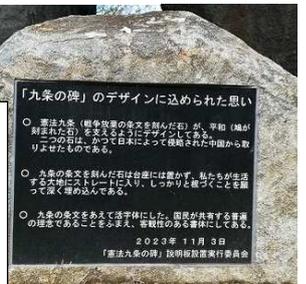
八重山平和祈念館



石垣島「憲法九条の碑」

「九条の碑」のデザインに込められた思い

- 憲法九条（戦争放棄の条文を刻んだ石）が、平和（鳩が刻まれた石）を支えるようデザインしてある。二つの石は、かつて日本によって侵略された中国から取り寄せたものである。



与那国島

与那国島を案内して下さった宮良純一郎さんは、石垣島移住の与那国島出身者だ。島には高等学校がないので、進学、就職となるといったん島を出なければならない。退職後、住まいのある石垣島と故郷である与那国島とを行ったり来たりしている。

2014年4月、故郷を出た与那国島出身者を中心に石垣市民にも呼びかけ「平和で豊かな与那国町の発展を願う八重山郡民の会」を組織し、自衛隊基地建設強行に反対し、島で闘っている人たちと連帯し活動を推進してきた。

与那国島は東京から1900km、沖縄島那覇から509km、台湾から111km、日本の最西端に位置し、周囲27.5km、面積28.9km²、2023年度現在人口1650人（自衛隊関係者250人）、行政区としては一島一町の独立自治体である。

好天時には島の西崎からは台湾の島影が望見できる国境の島。太古の昔から近隣諸国と交易し、アジアに向けた玄関口の役割を果たしてきた。



台湾の花蓮市とは1982年に姉妹都市を結び、国際交流を積極的に重ねている。

2005年に島民が自ら練り上げ策定した「与那国・自立ビジョン」は、東アジアとの交流や観光客誘致による自立を目指すもので「平和な国境と近隣諸国との友好関係に寄与する『国境の島守』として生きること」を高らかに宣言した。

しかし、そのビジョンは2014年自衛隊誘致に伴い「島の骨格を再編」との理由で、町当局自身により反故にされた。

「沿岸監視隊」から「ミサイル基地」へと進む軍事要塞化

誘致決議、沿岸監視隊の配備

戦後、与那国島には軍事施設はなく、住民の平和と安全に支障が生じることはなかった。

ところが2008年9月、外部から作られた与那国防衛協会の要請を受けた町議会が自衛隊誘致を行ったことから、当時の町長は人口減少対策と島の活性化を目的に誘致に奔走する。その結果、日本政府は「沿岸監視部隊」配備を決定し2014年4月建設工事が着工された。

誘致を巡り、島内は賛成派と反対派が激しく対立し2015年4月の住民投票において賛成派が多数を占めて建設は加速された。軍事基地は、小さな地域共同体を深く分断したうえで強行建設された。

2016年3月、沿岸監視部隊が開設され、巨大レーダー5機が林立、2023年1機が増設された。2019年6月には移動式警戒隊の車載式レーダーも配備された。与那国近海を通過する中国艦船を警戒、監視するのが主任務だそうだ。

陸自沿岸監視部隊開設から7年の現在

日米共同統合演習、ミサイル配備

2022年11月以降、与那国島駐屯地では2回に渡って米軍との共同演習「キーンソード23」が行われ、自衛隊の戦闘車が県内初の集落内の公道を走行し、島内に軍靴の足音を響かせた。日本政府は2022年末、安保関連3文書の内容を閣議決定しその正体を顕わにした。専守防衛を逸脱し、敵基地攻撃が可能となる大幅な見直しを行った結果、与那国駐屯地の拡張、ミサイル部隊の配備計画が2023年度防衛省予算で明らかになった。敵の通信を妨害する電子線部隊が配備され、さらには地对艦誘導弾ミサイルが配備される。

前町長は「監視部隊の誘致はしたが、ミサイル配備は聞いていない。ミサイルが来るなら島を出る、という人が出てきた。穏やかな島の生活が脅かされそうになっている」と告発した。ある島民は「誘致当初にも増して住民への説明もなく、短期間での一連の変化に、自治体が解体していくことを覚える」との危機を表明している。かつて国際交流・友好親善の象徴であった国境線は、今や戦火への導火線へと変質してしまった。

文化財破壊の懸念と自然環境への影響

ミサイル部隊配備の予定地は埋蔵文化財（集落の跡地）である。島の歴史を辿る重要な遺跡であり、軍事要塞化によって破壊されることがあってはならない。防衛省が駐屯地東側に取得を計画しているミサイル部隊配備のための土地は、環境省日本重要湿地500選に指定されている樽舞湿原地帯と隣接している。護岸を隔てた海岸・港から湿原までを掘削して港にする動きが出てきた。美しい浜はミサイル配備予定地と繋がり軍事利用の可能性もある。

与那国島駐屯地が建つ一帯の地質は、琉球石灰岩層と砂岩層・堆積岩がはしり、島の創世記を探る貴重なものだ。一瞬にしてそれが削り取られ赤土流出による海岸周辺の海水汚染が指摘されている。

駐屯地が建つ前は、牛馬がゆったり草を食む光景が見られたハイヌマティ（南の牧場）では、住処を追い出されるように道路をさまよい闊歩する牛馬の群れもある。よく見ると目やにが垂れ下がっている馬、充血している馬もいる。環境の変化からくるストレスによるものか、対空レーダーから出る電磁波によるものか、真相を調査して欲しいと言っている。



昆虫5学会は「与那国島への自衛隊配備計画に関わる要望書」を防衛省、環境省、県知事、与

那国町長宛てに提出している。その中で、与那国島だけに分布が確認されている種や亜種が 60 種近くあり、生物多様性の保全上極めて重要な昆虫類が多数生息していることを指摘している。

与那国島の「これから」を考える

疲弊した島の経済、依然として変わらない住民の生業の厳しさに国策である「自衛隊基地誘致」がつけ込んできた。

日本国憲法のもとに復帰した意味を問い直し、軍事によらない平和外交を強く求めていく。

宮古島

宮古島はサンゴが隆起を繰り返し出来た琉球石灰岩の島で、山がないので川がない、地下水で生きている島だ。総面積は 204 km²、人口約 55,000 人、大小 6 つの島で構成されている。

2019 年 3 月、上野千代田地区に陸上自衛隊宮古島駐屯地が出来た。弾薬庫はない、ヘリは飛ばさないと言っていた防衛省の嘘はすぐにばれた。ミサイル部隊と他の部隊を合わせて約 7~800 人の隊員が配備されている。基地は活断層の真上で、ジェット燃料が入れているタンクの下は軟弱地盤だ。基地建設は防衛省の嘘と関係者の利権で進められ、当時の市長は地権者と共に贈収賄で逮捕された。住民には丁寧な説明もないまま、軍事要塞化は着々と進んでいる。

「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会共同代表」上里清美さんにお会いするのは、2019 年以来二度目となる。

同じく共同代表の仲里成繁さんは、畑一筋にやってきた自分の畑の真ん前に基地が出来てしまったことに、自分の集落に戦争が出来るミサイル基地があることに、どうしても納得がいかない、と話してくれた。

防衛省の通達では、全国の自衛隊が管理している弾薬庫は第 1 群から第 4 群までであるが、千代田に置かれている弾薬庫は最も危険な第 1 群にあたる。火災が起きたら消火活動はしてはいけない、すぐに 600m 以上離れなければならない、とされているが、最も近い民家は、弾薬庫から

75m しか離れていない。防衛省は自分たちが出した通達さえも守らない。

2019 年に着工した保良鉦山は、削られた赤土がむき出しの痛々しい姿だった。昨年末に同じ場所から見ると、弾薬庫二棟と射撃訓練場が完成していた。また新たな弾薬庫配備も計画されている。

宮古島と 3540 (さんごのしま) m の伊良部大橋で結ばれた伊良部島には、「渡口の浜」という美しい海岸がある。この場所を想定して、自衛隊は米軍と一体となり離島奪還訓練を実施している。敵が島を占領したことを前提に、海と空からミサイル攻撃で敵を殲滅し、島を奪還するという作戦である。海に囲まれた逃げ場のない住民が犠牲になることは必至であるが、住民に対する説明はない。住民捨て石作戦は秘密裏に進行している。

「アジア・太平洋戦争」最後の激戦となった 1945 年 3 月~6 月、53,000 人が住む宮古島に 30,000 人余りの日本軍兵士が送られた。大本営の予想に反して宮古島に米軍が上陸することはなかったが、地上戦がなかったとはいえ、制海権も制空権も奪われた日本は、輸送路を絶たれて武器・弾薬はおろか、食糧や医薬品も島には入ってこない。連日の米・英



軍の無差別爆撃で野良仕事も出来ない。集落の大方が焦土と化し、民も兵も飢えとマラリアで多くの命が奪われた。日本軍 30,000 人のうち 2500 人が戦死しているが、その 9 割は栄養失調とマラリアによる。

2005 年に反戦平和を誓い行動する記念碑にと 100 名余りのカンパで^{うえののぼる}上野野原地区に「高澤義人の歌碑」が建立された。

1913 年、福島県生まれの高澤義人は、中央大学卒業翌日に治安維持法で逮捕され、1 年間拘留された。のちに青年学校の教師となるが、すぐに補充兵で召集され、当時日本が植民地としていた朝鮮から当時日本が侵略していた現在の中華人民共和国である北満を経て 1944 年 9 月、衛生兵として宮古島に送られた。宮古島では校庭に穴を掘り夜な夜な死者の骸に重油をかけて焼いた。

補充兵われも飢えつつ餓死兵の骸焼し宮古よ八月は地獄

碑には過酷な体験を表現する短歌が刻銘されている。

高澤義人は、以下のような短歌も残している。

犬、猫、みな食いつくし熱帯魚に極限の命つなぎたる島 慰安婦の一人をつれて将校舎に夜毎通いき当番兵なれば

「高澤義人の歌碑」の隣には「アリランの碑」がある。2008 年に「宮古島に日本軍「慰安婦」の祈念碑を建てる会」が世界中からのカンパで建立した。場所は与那覇博敏さんが提供した。そこは、^{うえののぼる}上野野原地区にあった慰安所にいた朝鮮人の女性たちが、ツガガー（井戸）まで洗濯に行き来する際に休んでいた場所でもある。当時小学生だった与那覇さんには、女性たちに唐辛子が欲しいと言われて、あげた記憶が今も鮮明に残っている。

アジア・太平洋戦争期、日本軍はアジア太平洋全域に「慰安所」を作った。沖縄全県で 130 カ所、宮古島には 17 カ所の慰安所が確認されている。

アリランの碑の背後には「慰安婦」とされた女性たちの国・11 の言語と、今も続く戦争時の性暴力の象徴としてベトナム戦争の時に韓国兵による被害を受けた女性たちのベトナム語を加え 12 の言語で刻む「女たちへ～平和を愛する人々へ」の碑が建立された。



← 宮古島カママ嶺公園にある日本国憲法 9 条の碑

碑は市民の募金で建立し宮古島市に寄贈された。2007 年 6 月 23 日の除幕式で、宮古憲法九条の碑建立実行委員会の仲宗根将二委員長は、「宮古は地上戦こそなかったものの無差別爆撃にさらされ、飢えとマラリアの猛威で多くの尊い命が失われた」と沖縄戦の惨状を語り、「戦争につながるあらゆる策動を否定し、国際紛争は平和憲法にのっとって話し合いで解決するよう全世界に提唱する」と挨拶した。

「何もないのが宮古の良いところ。」とかつて上里さんが自慢してい

た宮古島は、戦争を呼び込む、戦争を仕掛ける基地の建設が次々と進み止まらない。

宮古島には野菜畑が少ない。台風が多く 11 月まで落ちていて野菜が作れないからだ。店頭には九州産の野菜が並ぶ。台風が長引けば、海路、空路が遮断されるので 1 週間で食料が無くなる。そんな宮古島に戦争を想定し、シェルターを作るなどと言いだす政治家がいる。人の暮らしや営みが全く想像できないことに、開いた口が塞がらない。55,000 人分の食事は 1 日で 165,000 食だ。10 日なら 165 万食。戦時に、制海権、制空権を押さえられて、いったい誰がどうやって運ぶというのか…。



← 2016 年に北海道の友人が撮影した伊良部大橋の写真。

今この場所には大企業が運営する大型ホテルが建っている。宮古島には景観条例がないので、お金を持っている人が良い景色を独占してしまう。

宮古空港の大型スクリーンには、ホテルでのラグジュアリーな非日常の映像が、滝の流れのように次々と映し出されていた。まるで人々の脳裏に浸み込ませるかのように、金と権力が、住民の思いをよそに小さい島を飲み込んでいく。

3 島を訪ねる旅を振り返って

「沖縄戦」に学ぶなら、戦争を呼び込む基地は直ちに封鎖することだ。かつて基地のある所に戦争はやって来た。

日本国憲法前文に記されているように、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを、今こそ決意しようではないか。

日本国と中華人民共和国の間には平和友好条約がある。

もし、内容をご存じない方は、外務省の HP を見て欲しい。

第一条は次のように記されている。

- 1 両締約国は、主権及び領土保全の相互尊重、相互不可侵、内政に対する相互不干涉、平等及び互恵並びに平和共存の諸原則の基礎の上に、両国間の恒久的な平和友好関係を発展させるものとする。
- 2 両締約国は、前記の諸原則及び国際連合憲章の原則に基づき、相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し及び武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認する。

同じアジアに位置し、経済的にも緊密な関係にある現在の中華人民共和国。かつて日本が侵略し、傀儡国家を建設し多くの人を苦しめた隣国を、仮想敵と位置付けるのは何故か？

隣国の内政に干渉し戦争を煽っているのは誰か？

長射程のミサイルを配備して威嚇しているのは誰か？

4 人に 1 人が犠牲となった「沖縄戦」で沖縄県民が、体で心で、学んだ「命どう宝」を踏みこむのは誰だ！

嶋田由加里

<参考文献>

島々を再び戦場にさせない！南西諸島からの報告 あげぼの出版

みやこ九条の会「歴史と平和学習」(資料) 宮古郷土史研究会・歴教協宮古支部

八重山戦争マラリアを語り継ぐ 宮良純一郎 月刊社会教育 2015.6

